

院長のご挨拶 —2019 年にあって—

本年は 30 年続いた平成から新しい年号に変わる節目の年となりました。この数年間、大和高田市立病院では、徐々に病院改革を進めてまいりましたが、さらに本年を大きな飛躍の年にしたいと考えております。

日本では、人口減少や少子高齢化が急激に進行しておりますが、大和高田市も例外ではありません。しかし、激動の社会においても、私たち大和高田市立病院には、中和医療圏の基幹となる自治体病院として、将来にわたって、住民の方々に安心・安全の医療を提供し続ける使命があります。これらの使命を果たすための私たちの取り組みについて、ご紹介致します。

先ず救急医療について、昨年 10 月から、大和高田市立病院が立ち上げを主導し、葛城地区の二次救急輪番が正式に稼働し始めました。平日の当直帯および土日・祝日の日当直帯の成人の内科および外科疾患が、対象です。大和高田市、葛城市、香芝市、広陵町の 3 市 1 町の自治体と土庫病院、中井記念病院、香芝生喜病院、御所済生会病院、吉本病院、大和高田市立病院の 6 病院および葛城地区の救急隊が連携して運営し、奈良県立医科大学の協力を得て、地域における救急車の応需率の向上や応需決定までの時間短縮などの成果が得られるようになりました。今後、可能な限り、「中和の救急は中和で完結すること」を目標に頑張りたいと考えております。

次に、現在、大和高田市と協力して、古くなった病院の建て替え計画を進めています。私たちは、30 年後も安心・安全の医療が継続できる万全の体制作りを目指しています。そのため計画案の発表に時間を要しておりますが、時機を見て、市から発表があるものと存じます。

また 320 床の急性期病院としての機能を果たすことができる病院スタッフの確保も重要です。まだまだ十分とは言えませんが、常勤医師数が徐々に増加し、4 月からは 50 名を超えます。さらに初期臨床研修医も増加し、総勢 5 名となる予定です。これらは働きやすい職場環境を整え、チーム医療の推進を図ってきた努力の成果が表れてきたものと考えております。スタッフの増加は、確実に医療水準の向上に繋がるでしょう。

私たち大和高田市立病院のスタッフ一同は、地域の基幹の自治体病院としての自覚を持って、中和医療圏の地域医療構想の確立に向け、全身全霊で取り組んでまいりますので、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

平成 31 年 1 月 1 日

大和高田市立病院 病院長 岡村隆仁